

令和4年度(2022年度)事業計画

- ① 総務部 5
- ② 企画制作部 7
- ③ 事業推進部 9
- ④ おもちゃ美術館(準備室)事業部 11
- ⑤ 拠点事業部
 - わはは・ひろば高松 13
 - わはは・ひろば香西 15
 - わはは・ひろば坂出 17
- ⑥ センター事業部
 - まろっ子ひろば 19
 - 一時預かり 21
 - 事務 23
- ⑦ 利用者支援事業部
 - 高松コーディネーター 25
 - 坂出コーディネーター 27
 - 受託事業 ドコモ市民活動団体助成事業 28
 - 受託事業 地域で共育 29

総務部 令和4年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
総務部	- 円	小出 正1人	3,000 円以上の寄付者 100 人以上

【年度の行動目標】

主	安定した組織運営の仕組みを整える	今期の重点行動予定	SDGs
重点項目	①年間の組織内の動きを見える化する	年間カレンダーに、組織内で実施する事柄を見える化し、計画的な実施を目指す。	8
	②非収益事業である、おもちゃ美術館事業を含めての会計手順を整える	日々の出納の方法、マニュアル化、月次の締めから全体への統合等、ルールを整えていく。	8.10
	③職場環境の改善	3Sの取り組みを継続させつつ、各部門で取り組んでいる事の情報交換や、よりよい取り組みの共有のために、3Sネットワークを活性化させる。年に2回程度の共有の機会を提案し、実現につなげる。	8
	④ワークライフバランスの実現	昨年度達成した、有給休暇取得率 85%超を継続させるために、引き続きリーダー会での周知、個人目標数値の見える化を続けて意識づけをしていく。働き方アンケートも年末に継続実施。	8
	⑤キャリア支援	4年前から実施してきている、キャリア面談を継続。スタッフ増に伴い、就業規則に基づいた実施回数(入社直後(概ね2か月以内)と以後2年ごとに実施)に変更。日常的に受け付けられる相談窓口を開設し、必要な場合は都度相談ができる体制を整える。スタッフの希望者を募っての、キャリアワークショップを年2回開催。	8

【事業チームとしての行動計画】

経理、労務の管理体制について、おもちゃ美術館も含めて円滑な運営ができるように、これまでの仕組みに乗せられること、新しく検討の必要なことを精査しながら、柔軟に進めていく。

組織全体としてより『働きがいのある職場づくり』のために、成果の上がったことは継続しつつ、新規の取り組みも進めていく。特に今年度は3Sチーム内の交流、自主企画のキャリアワークショップを実現する。

【計画達成へのポイント】

部門も増え、人員も増え、やらなければならないことが増えている時期だからこそ、必要なことを精査しつつ、計画的な実施を目指す。

→年間カレンダーへの落とし込み。→週1回のミーティングの実施を大切に、確実に実行できるようにしていく。

昨年度末より実施してきている、月1回のマネージャー会を継続実施していく。

企画制作部 令和4年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
企画制作	自主事業 24,147,600円	2人	45,540人
	美容-eki 977,000円		

【年度の行動目標】

主	人材確保、人材育成	今期の重点行動予定	SDGs	
重点項目	自主事業	子育て情報誌『おやこ DE わはは』(Vol.101～Vol.106) ■売上目標 14,000,000 円	・年間計画に沿って制作、営業を滞りなく実施する。 ・顧客リストを活用した営業、特集テーマに準じた新規営業開拓を行う。2号、3号先を見据えた営業活動。	3,4,5,8,1 0,11,12,1 3,14,15,1 6,17
		ソーシャルメディア・SNSの活用、情報発信 ■売上目標 100,000 円	・企業が発信したい内容を子育て家庭目線で伝え、広告収入に繋げる仕組みづくり。 ・SNS(LINE@、インスタグラム、フェイスブック)は計画的、継続的に配信を続ける。LINE@ 1,800名、インスタグラム 1,700名を目指す。	11,12,17
		ママ∞フェスタ 2022 ■売上げ 4,000,000 円	・11/12 開催決定。出展ブース企業の目的達成を目指す。 ・より多くの子育て家庭に周知していく。 ・防災との協働開催により、企業×子育て家庭だけでなく、防災×子育て家庭となるものにする。 ・第10回目の開催となるので特別企画の実施。	4,5,10,11 12,17
		防災について	・誌面、SNS を通じて家庭防災を考える機会の提供。	4,11,12,1 7
		たかまつらっこ ■売上(R4)5,847,600 円 ■売上(R5)6,000,000 円	売上げ目標達成のため新規営業先の開拓を行う。 広告予定ページに空きを作らないようにする。	3,17
		企業コラボ企画 ■売上 200,000 円	情報誌、たかまつらっこ、讃岐おもちゃ美術館、ママフェス、SNS など わははネットを知ってもらう営業を行う。一目でわかる媒体ツール作成	4,8,9,11, 12,17
		縁結び・子育て美容-eki ■受託額 977,000 円	・確実に業務を遂行する。	11,12

【事業チームとしての行動計画】

人材確保・育成

・スタッフの増員を夏までに目指す。人材育成を行う。

営業

・情報誌は年間を通しての計画の細分化により営業の早期着手につながるものにする。
・ママフェスは 8 月末の最終締切りまでに 50 ブース獲得を目標、過去出展企業、新規企業へのアプローチを行う。
・売上金額だけに着目せず、営業利益 20%を目指して総合的な営業を実施していく。

制作

・情報共有ツールやチャットツールを活用しさらなる制作業務の効率化を行う。
・子育て家庭に確実に届けるため配本先の見直し。幼保全戸配布依頼を続ける。在庫 100 冊以内をめざす。
・担当者が自身の業務目標をたて、実施できるようにする。業務の進行確認は毎週行う定例ミーティングで確認する。
・制作、営業業務の基本的な行程を誰がいつみても分かるように情報共有手段の確立。

認知度 UP

・SNS ツールごとの特性を知りインスタグラムは週 4 回、フェイスブックは週 2 回の発信をし、登録者数アップを目指す。

子育て世代の力を活用

・子育て家庭の声を聞く機会を定期的にとる。ユーザー巻きこみ型の情報発信を行うため、昨年誕生したママ記者が活躍する場を提供する。(情報誌誌面、インスタグラム情報提供など)

【計画達成へのポイント】

・人材の確保を行い、育成を行う。
・売上げだけでなく利益を意識しながら事業を展開していく。

事業推進部 令和4年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
事業推進部	20,569,450 円	小出 P3人	108,425 人

【年度の行動目標】

主		今期の重点行動予定	SDGs
重点	①令和3年度版子育てハンドブックの協働発行事業(高松市)	広告については、企画制作部へ。掲載内容について引き続き確実で分かりやすい情報提供に努める。	3.17
項目	②高松子育て支援総合情報発信事業(高松市) ¥948,200	冊子改訂の情報の速やかなWEBへの改定作業。役所と連携しながら都度必要な情報提供に努める。	3.17
	③ひとり親等支援総合情報発信事業(高松市) ¥1,361,250	引き続き正しい情報提供に努めるとともに、メール相談にも迅速に対応していく。	3.17
	④子育て支援人材養成事業(香川県) ¥8738,000	コロナの状況も見ながら、参加者が安心して参加しながら、学びを深めることができる研修運営を実施する。	3.4.17
	⑤「イクケン香川」たまご育て事業(香川県) ¥3,055,000	これまでのノウハウを生かし、より事業が意味のあるものになるために、県と連携しながら進める。	3.4.5.17
	⑥仕事と子育ての両立に関わる事業 ¥160,000	ハードルが高かったと想定される申し込み方法を再検討。夫婦で参加できるプログラムをおもちゃ美術館内で年1回実施する。香川銀行の育休プログラムについては、2人目、3人目の育休取得者もふえていることから、期待する内容の聞き取りを実施し、ニーズに合った講座を組み立てる。	5.8.17
	⑦乳幼児とのふれあい事業(高松市) ¥340,000	コロナ禍で、直接親子が学校に出向くことが難しくなってきたところを、動画を制作することで補えるようにする。学校の要望を聞きつつ、プログラムも再考する。	3.5.17
	⑧女性リーダー養成講座(香川県) ¥1,200,000	研修全体を通して、参加者のモチベーションアップを図るとともに、参加者同士の交流が生まれるよう配慮する。	3.5.8.17
	⑨【新】子育てハンドブック改訂事業(坂出市) ¥660,000	まるっ子ひろばの紹介ページ、コラム等の制作を含めて、現在の情報をより分かりやすいものに改訂。	3.17
	⑩【新】女性が輝く職場づくり事業(香川県) ¥2,400,000	メンター養成に取り組みたい、興味があると感じている企業を20社以上集め、伴奏支援を実施する。	3.5.8.17
	⑪【新】放課後児童支援員養成研修(高松市・予定) ¥1,710,000	香川県事業としての実施のノウハウを生かして実施。担当者・講師・参加者との連絡を丁寧に実施する。	3.4.17

【事業チームとしての行動計画】

継続事業については、これまで実施してきていることを確実に継続できるようにすることを目指すとともに、事業の目的達成のために改善すべきところがないか常に見直す視点を持つ。計画を都度振り返りながら、確実な事業実施を目指す。

【計画達成へのポイント】

- ・定例の月曜ミーティングの機会を大切にする。自分の担当のみならず、チームの事業の進捗に意識を向ける。
- ・昨年度より事業数も増えていることから、自分の責任を果たしつつ、より助け合いながらの実施が必要とされる。

おもちゃ美術館事業部 令和4年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
おもちゃ美術館事業部	44,300,200 円	中橋・小出 正 3 人 P7 人	45,000 人

【年度の行動目標】

主	安心・安全な運営と、安定した経営を目指す。	今期の重点行動予定	SDGs
重点項目	① 入館者目標 45,000人 /年 定期的に経営計画の見直しを図る、	親子をはじめ、年間 45,000 人の有料入館者を目指す。来館した方がまた来たいと思える、ここに来てよかったと感じられる施設運営を目指す。そのため、3か月に一度、実績と照らし合わせながら、期首の経営計画を見直し、安定した経営ができるように対策を図る。わははネットの credo に沿って、本事業の意味、目指すべき姿を確認しつつ、方向を揃えていく。常勤ミーティングの時間を週1回確保しながら、おもちゃ学芸員さんへの関わり、イベント等、具体的に計画をたてて確認していく、	8
	②人材育成	役割の明確化、現場が動きながらの会議体の持ち方、時間の使い方等 試行錯誤しながら、9月までには基本となるスタイルを確立する。一人一人が目標を持ち、自ら考え現場で動くことができるよう、シートを使っての目標管理を実行する。	8
	② 寄付	一口館長の個人寄付については、窓口で都度対応し、返礼品発送までのフローを整える。企業寄付についても機会をとらえて事業説明をしていくことで、継続的に募集をし、年間合わせて 350 万円を目標とする。	
	③広報	スタッフも巻き込んだ SNS の活用を検討。どのターゲットに対して、どうアプローチするのか、計画を立てつつ機会をとらえて発信をしていく。	3
	④施設管理	館内の清掃については、早い段階でマニュアルを作成し、スタッフ・おもちゃ学芸員協力して、効率的に清掃でき、かつ館内を常に清潔に保つことができるようにする。おもちゃの破損、在庫管理等のルールを決め。安全に楽しく遊べる環境を整える。	8.10

【事業チームとしての行動計画】

□来館者の方が、また来たいと思ってもらえる施設を目指して、来館時の対応、広報内容、施設管理等に気を配る。

→掃除チェックシートに沿っての日々の清掃、週の清掃、不定期の清掃の実施

→日々の振り返りの時間を活用して、個々の対応、館内での事象について検討・相談する

→日ごろから、他の姉妹館や、他の施設の広報を見ながら、自分事としてやれることを提案する

□全員がシフト制のため、引継ぎや共有を心掛ける。特に日報の確認や、気が付いたことがあれば、ライングループに気軽に発信しながら、コミュニケーションを図ることを意識する。 →日報の確認を欠かさない

【計画達成へのポイント】

目標管理シートを活用して、個人の行動計画に沿って活動を進めるとともに、讃岐おもちゃ美術館の運営状況、経営状況等、定期的に資料にまとめて共有する。必要に応じて意見交換ができる時間をとる。常勤スタッフについては、月に2回以上のコアミーティングの時間を確保する。

拠点事業部 わはは・ひろば高松 令和4年度事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
わはは・ひろば高松	8,398,000 円	正 1 P 2	3,360 人 12,000 人(関わった人の人数目標)

【年度の行動目標】

主	地域と繋がるひろばへ	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	① イベントの充実	同じ境遇の人が集まれるイベントを開催(月 4 回以上) 親子で体験できるイベントの実施(年 4 回) 大人が体験できるイベントの実施(年 4 回)	3,4
	②オンラインの活用	SNS を活用し、おうち遊びを発信(月 1 回) オンラインでイベントを開催(年 6 回)	3,4
	③地域にひろばを知ってもらう	ひろばの広報箇所を増やす(5 か所) 地域へのお手紙を配布(年 2 回) ボランティアイベントを地域で開催(年 2 回) 地域で開催されるイベントに参加(年 2 回)	11
	④スタッフのチームワークづくり	ミーティングを週 1 回実施し、業務の進捗を共有 朝礼、振り返りで CN と支援内容を共有 3S 活動をおこなう(月 1 回)	8

【事業チームとしての行動計画】

- ・地域の方の利用を増やし、目標利用人数を定員の 70%、3360 人を旨す。
- ①同じ境遇(赤ちゃん、アラフォー、転勤族、地元、パパ、育休中、マタニティ)の方同士で集まれる場の提供。
- ①親子の体験イベントを年 4 回開催。(防災、体を使ったあそび、英語、わらべうた)
- ①大人が体験できるイベントを年 4 回開催。(ハンドメイド、救命、ヨガ、工作)
- ①イベント参加者目標予約率 80%、満足度 80%、継続率 60%以上を旨す。
- ②インスタでおうち遊びを月 1 回発信。目標フォロワー1200 人(ふれあい遊び、手作りおもちゃ等)
- ②オンラインでイベントを年 6 回開催。目標参加率 60%(防災、わらべうたあそび、絵本の選び方、おしゃべり会)
- ③ボランティアイベントを地域(コミセン、レッツホール)で開催。(年 2 回)
- ③ポスター、ひろばカードを作成し地域で掲示、配布場所を増やす。(5 か所)
- ③地域のお店へひろばの活動報告を手紙にし、年 2 回お渡し。ひろばの活動を知ってもらう。
- ③ひろば利用のきっかけを、通信・地域の紹介の 2 項目で合計 15%以上を旨す。
- ④ミーティング週 1 回実施し、年度目標の再確認やイベント、業務についての進捗状況を確認共有する。
- ④毎日の朝礼、振り返りで CN と支援内容の共有を行う。
- ④月 1 回 3S 活動をおこない、業務の効率化やペーパーレス化に努める。

【計画達成へのポイント】

- ・イベントの事前準備や地域の情報収集が必要である。
- ・地域にスタッフが出る機会を増やすため、業務の効率化を進め、時間の確保が必要である。

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
わはは・ひろば香西	9,915,000 円	正 1 P 4	4,000 人 13,000 人(関わった人の人数目標)

【年度の行動目標】

主	地域に根差したひろばづくり	今期の重点行動予定	SDGs
重点項目	① 新規利用を増やす	サークルなど親子の集まる場所でイベント実施する SNS を活用しひろばを知ってもらう。	3
	②地域との繋がりを深める (重層的支援体制整備事業)	継続的に参加できるボランティアの募集 近所の方にイベントのチラシを配り知ってもらう。 健診・産婦人科などに訪問しひろばの役割を知ってもらい親子に紹介してもらう。 シオンさんと交流する。 コミセンサークルへ参加し、顔の見える関係を築く 地域の方も参加できるイベントの実施	11
	③情報発信	Instagram LIVE 配信で手遊びなどをする 気軽に相談できる場所だと知ってもらえる広報する。 地域の最新情報をひろばお知らせする。	11
	④スタッフの連携	週一ミーティングで担当業務の状況を確認する。 月 1 でひろば内研修の実施	8
	⑤他事業との連携	おもちゃ美術館でのイベントを実施しひろばを利用したことのない方に知ってもらう。 情報誌で取り上げられている内容でのイベントの企画	11

【事業チームとしての行動計画】 地域の方と関わった延べ人数 目標 60 人

- ①サークルに毎月参加し、年に 2 回運動会・体を使ったイベントに講師を招いて実施する。参加率 80%
- ①SNS の活用(スタッフ紹介動画・赤ちゃんのひろばでの過ごし方動画)動画再生数 150 回目標
- ①Instagram フォロワーを増やす 目標 900 人
- ①通信に新規利用者が参加しやすいイベント記載 新規登録目標 110 組
- ①健診・産婦人科への訪問し新規カードをプレゼントする。来館目標 30%
- ②フリマ・野菜の植え付けなど近所の方へチラシを配る。
- ②大学にボランティア募集のチラシを掲示させてもらい、年間登録目標 2 名
- ②利用者と季節の野菜を育てて大家さんやシオンさんにプレゼントする。年 2 回
- ②防災 DAY をひろば利用者だけではなく近所の方にも参加してもらえる内容にする。
(避難経路・防災グッズ)年 1 回 参加率 80% アンケート満足度 90%
- ③ふれあいあそびや工作などの Instagram ライブの実施 月 2 回 目標 視聴者数 延べ 100 人
- ③コミセンで地域の情報を定期的に収集し、ひろばでお知らせをする。(月 1 更新)
- ④新人スタッフとひろばの役割・スタッフの役割・事例検討についての研修を月に 1 回実施
- ④週 1 ミーティングで業務の進捗状況を確認する。またスタッフの有休取得率を目標 80%達成する。
- ⑤おもちゃ美術館での読み聞かせイベントを実施し、ひろばの来館につなげる。目標 10 組
- ⑤情報誌広告掲載企業が募集するイベントに利用者が参加できるように、ひろば内で掲示お知らせする。

【計画達成へのポイント】

- ・業務に年間計画を立てて、ミーティングで進捗状況を確認しスタッフ間で共有する。
- ・研修に参加しスタッフのスキルアップにつなげる。

わはは・ひろば坂出 令和4年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
わはは・ひろば 坂出	8,398,000 円	正 1 P 3	① 4,000 人 ② 13,000 人
駐車券補助	150,000 円		

【年度の行動目標】

主	つながりの「わ」をつくろう!!	今期の重点行動予定	SDGs
重点 項目	① オンラインで利用者さん とつながる	・毎月 ZOOM の使い方説明会をし、初めての方も使ってもらえるようにサポートする。 ・他のひろばと ZOOM でつなぐイベントの開催。	3
	② ボランティア活動を通して、 利用者さん同士のつながり をつくる	・利用者さんの得意なことを知り、ひろばで活躍の場を設ける。 ・フリーマーケット(年 2 回)の実施。 ・ひろばの日常の中にも活躍の場を作り、役立ち間が感じられるようにする。	1・3・12
	③ スタッフの連携を図る	・日々の細かいことも共有、連携を図る。	3・8
	④ 地域とのつながりをつくる	・地域の行事参加やひろば外でのイベントの実施。 ・他機関と顔の見える関係の構築。	3・11
	⑤ おもちゃ美術館とのつながり をつくる	・おもちゃコンサルタントマスターによるの講座回数を増やす。 ・おもちゃ美術館への遠足の実施。 ・おもちゃ美術館に設置のひろばパンフレット用にインデックス差し込み。	3・11

【事業チームとしての行動計画】

- ① ひろば休館時を見据え、月 2 回(9:45~/15:00~)ZOOM を使ったの会を継続して実施。年間 ZOOM 参加者 40 組を目指す。
- ① オンライン参加者にアンケートを実施し、より参加しやすい内容にしていく。
- ② 新規利用者さんに向けてのカード作りや季節の壁面工作など、日々のひろばの中で活動できる機会を設ける。(月 1 回以上)
- ② 活動の内容を Instagram などでも広報し、活動の様子を知り参加してもらえるようにする。(月 1 回以上)
- ③ 安心・安全なひろばづくりのため、週初めのミーティングで 1 週間の活動、日々の困りごとなどを共有。利用者アンケートで安心できる・安全に配慮されている 90%以上を目指す。
- ③ テキストの読み合わせ、研修報告などひろば内勉強会の実施。(月 1 回)
- ④ 八日市、土曜デーなど商店街のイベントに利用者とお出かけたり、地域へスタッフが外向く機会を設ける。(年 10 回)
- ④ 出前講座の活用など、他機関の協力を仰ぎながら顔の見える関係を築いていく。(月 1 回以上)
- ⑤ ひろばの様子がよりわかるインデックスをパンフレットに差し込み、おもちゃ美術館からひろば利用へつなげる。(新規利用者 10 組)

【計画達成へのポイント】・イベント後などアンケートを取り分析、次の活動につなげていく。

センター事業部 まろっ子ひろば 令和4年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
まろっ子ひろば	8,575,000 円	正 2 人 P 1 人	5,500 人

【年度の行動目標】

主	赤ちゃん期からの利用促進	今期の重点行動予定	SDGs
重点項目	① 情報発信	目的別に SNS にて情報発信を行う	3
	②利用につながるイベント	毎月テーマを決め赤ちゃんひろばを行う	4 17
	③サポーターズの活躍の場を作る	サポーターズが活動を通して役立ち間を感じられる機会を設定	11
	④ひろばの認知度を上げる	3.4 か月、1 歳 6 か月健診、パパママ教室チラシ配布 地域に向け回覧板でのひろば周知	11
	⑤スタッフの連携	週1回のミーティングで進捗状況の共有を図る	8 17

【事業チームとしての行動計画】0 歳児の登録人数を 250 人にする。(登録時 0 歳児) 内、坂出市内 170 人(坂出市出生率の約 60%)

① SNS を毎日投稿する。その内、新規さん向けの記事を月 1 回アップする。

①Instagram フォロワー数目標 650 人

②専門家の情報提供や座談会、先輩ママとの交流会、母のお楽しみイベントなど、毎月の赤ちゃんひろばでテーマを決め行う(目標:延べ 450 人/年参加)

②ひろばデビューデーを毎月開催し、ひろば利用のきっかけとなるようにする。デビューデー新規登録 20 人。

③赤ちゃんひろばやひろばデビューデーなどイベントにサポートとして入ってもらい、赤ちゃん家庭や 1 人目育児家庭が会う機会をつくる(目標:延べ 25 人.12 回/年)

③サポーターズの活動報告をひろば掲示や SNS にアップし、サポーターズの活動を広く知って活動の参加を促す。新規サポーターズ 10 人登録目標。

③サポーターズ主体のイベントを開催する(年 1 回)

④3.4 か月健診、1 歳 6 ヶ月健診、パパママ教室でチラシの配布。3.4 か月健診では年 6 回ひろばスタッフが出向く。健診がきっかけでの登録目標 40 人

④地区の回覧板に通信やひろばの様子がわかるまろっ子新聞を毎月作成し回覧する。回覧板を見て来館する地域の方 20 人目標。

⑤研修・勉強会に年 2 回以上参加し、スタッフ勉強会にて共有する。共有するためのスキルもあわせて獲得する

【計画達成へのポイント】

- ・定期的な確認の時間設定と半期ごとに振り返りを行い、課題と達成状況を確認する。
- ・朝礼やまるミーティングの時間を使い、他部署とも情報共有し連携を図る。
- ・限られた時間の中で共有するための共有内容の精査し時間管理を行う。

一時預かり 令和4年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
一時預かり	3,107,000 円	正 1人 P 1人	新規 70 人 枠数 650 人

【年度の行動目標】

主	保護者が安心して預けられるようにする	今期の重点行動予定	SDGs
重点項目	① 利用人数	Instagram に預ける理由ランキングを投稿し、預けることの不安やハードルを下げ、新規登録者数を増やす。	17
	② 保育内容	・食事やトイレトレーニングなど、子ども一人一人に合わせた保育を行い、成長を促す。 ・教育・保育施設等における事故の防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインに沿った昼食、おやつの特参の協力を得る	4
	③ 保護者対応	子どもの受け渡し時は保護者が話やすい環境を設定する	16
	④ 多機関連携	CN とケースの共有を行い、必要に応じて専門機関につなぐ。	17

【事業チームとしての行動計画】 新規登録者のうち、70%の利用を目指す

- ① HPの更新を定期的に行う。(2回/月)
- ① Instagram に預ける理由ランキングを投稿し、利用を促す。(Instagram を見ての登録:10人)
- ① ひろばのイベントで一時預かり登録会を行う。(年2回・10人)
- ② 家庭ではできない季節や季節の行事を感じられるよう拠点イベントに参加する。
- ① 保育に関する研修に参加し支援内容を学ぶ。(年4回)
- ① 感染症対策を中心に市からの情報共有を行い、必要に応じて市への情報提示を求める。
- ② 資料を作成し保護者に配布説明時間を取り協力を得る。
- ③ 連絡カード内容を精査し、より具体的に確認できるようにする。
- ③ 送迎時には保護者の子どもとのかかわりや家庭での様子を聞き取り、迎え入れの際には聴き取りが漏れないよう子どもの見守りを点検対応する。
- ④ 要観察児については、預かりの都度、CN と共有を行い、必要に応じて専門機関につなぐ。
- ④ 朝礼時、MTG 時に各部署とケースについて共有を行う。

【計画達成へのポイント】

- ・送迎時の聴き取り時の時間の確保を行うため、スタッフと連携し子どもの見守りスタッフを確保する。
- ・Instagram・連絡カードについてのアンケートを前期、後期に実施する。

まろっ子事務 令和4年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
まろっ子事務	6,236,000 円 300,000 円 (フェスティバル)	正 1 人	延べ 11,000 人

【年度の行動目標】

主	幅広い層の利用者を増やす	今期の重点行動予定	SDGs
重点項目	①安心・安全な館の管理業務	定期安全点検、避難訓練、救急救命講座の実施。3S 活動で館の備品の整備や安全管理を徹底する。清掃、消毒、換気などコロナ感染症対策に努める。 館年間予定業務の共有・実施。	6、9、11
	②利用者の視点にたった運営	SNS で迅速な情報発信をする。移動図書館の利用促進。2 回/年アンケートの実施。	3、4、16、17
	③利用者増加を図る	リサイクルデーを 2 回開催。収益は、子どもや保護者、地域の方のニーズを窓口やアンケート等で拾い、館の備品購入や整備に充てる。HP・パンフレットの設置場所等の更新を行う。	1、3、4、12、
	④子育てフェスティバル・ネットワーク・自主事業	第 7 回フェスティバル開催を通して地域の子育て支援団体と連携して交流を深める。市内の子育て支援団体の周知を図る。ライフジャケットの貸し出しと周知。	1、3、4、5、8

【事業チームとしての行動計画】屋外ひろば&交流スペースの利用者数 5,600 人、パパの利用を利用者数の 5%、地域の方 5%人、3~6 歳 25%を目標とする。

- ①毎朝の館内清掃と日中のチェック、昼休みと閉館後のおもちゃ消毒や拭き掃除など衛生管理を行う。
- ① 朝礼及び月 2 回のスタッフ会議を行う。その際の議案、議事録を作成し共有の徹底を行う
- ①防災意識を高めるため、体験談を盛り込んだ防災ポスター制作掲示する。
- ②目的や情報を届けたい層に合わせて掲示物や HP、SNS を活用して PR する。パパ・地域の人対象の記事を月 1 回それぞれ発信する。インスタグラムフォロワー目標数 650 人とする。
- ②図書館と協力し、移動図書館の説明会を開催。利用者や近隣の人にも活用してもらうように掲示物などで PR する。
- ③屋外ひろばや交流スペースの利用促進となる環境整備を、リサイクルデー収益で購入。
- ④参加人数増やす事を目的とし、子育てフェスティバルの開催方法、内容について再検討し実施する。
- ④ライフジャケット貸し出しの周知を SNS にて定期的実施。(12 回/年)

【計画達成へのポイント】

- ・屋外、1F 交流スペースの管理業務が増えた分、定常業務の精度を向上して効率的に行えるようにする。
- ・朝礼での業務共有をし、報告書・安全点検の締め切りをスタッフ各自でも確認できるようにする。

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
子育て支援部(高松コーディネーター事業)	8,686,000円	4人	3,200人
2021年度 ドコモ市民活動団体助成事業	1,000,000円	2人	2021.9~2022.8

【年度の行動目標】

主	身近な相談相手となるために	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	①情報提供	・支援者向けに HP 掲載 ・イベント報告を HP 掲載	1・3・4・10・16
	②相談	・ちよい話の会の開催 ・CN 相談日の開催 ・CN がひろばで過ごす時間をとる	1・3・4・5・8・10・16
	③広報	・通信で CN 主催イベントの様子を掲載 ・ひろば掲示板の活用 ・SNS で CN の認知度を上げる ・通信で CN 紹介	1・3・4・10・16
	④他機関連携	・他機関との合同研修開催 ・他機関との協働イベントを開催	1・3・4・5・10・11・16・17
	⑤資源開発	・発達相談会開催 ・ドコモ市民活動団体助成事業	1・3・5・10・11・

◆目標数値:ひろば利用者で CN 相談をしたことがある人⇒80%

【事業チームとしての行動計画】

- ① ・支援者向けに、HPでCN業務が分かるよう、事例やイベント報告を含めた内容掲載。支援者から利用者へつなげてもらう(年6回) ⇒年間相談延べ件数のうち、10%が他機関連携によるものにする
・イベント開催後HPに報告を掲載、参加できなかった人に情報提供を行う 認知度 20%・ちよい話の会を小テーマでの定期開催(月1回) ⇒イベント開催の認知度を80%にする
・CN 相談日の定期開催。午前・午後のインフォメーションで業務説明を行う(月1回) 相談したい 90%
・コーディネーターひろば滞在時間を増やす。
- ② ・通信で CN 主催イベントの様子を写真付きで掲載(月1回) 参加者 40%
・ひろば掲示板の活用。イベント、自己紹介やメッセージを掲載(月1回) 相談したい 90%
・SNS で顔が見える自己紹介にて CN 認知度を上げる(年4回)4・7・10・1月 相談したい 90
・通信にも顔出し紹介する(年3回)4・8・12月 ⇒新規利用者でCNを知っていると答える人を60%にする
- ③ ・重層的支援開始に伴い他機関との合同研修の開催(年1回) 他機関へのCN認知度をあげ連携する
⇒年間相談延べ件数のうち、10%が他機関との連携
・他機関連携イベントを開催(6回/年)し、重層的相談入り口をCN相談となるようにする
- ④ ・発達相談会、ひととこオフ会、性教育、パパ座談会の開催。拠点利用が短期化しているが、就園後も相談場所として利用できるようイベントを実施する ⇒設定予約数に対し70%の参加数を目標とする
・拠点で夫婦の相談ができる事の認知を広げる ⇒夫婦相談の件数を相談全体の5%にする

【計画達成へのポイント】

◆拠点の実施時期に併せ前期後期でアンケートを収集し、目標数値を確認できるようにする

- ① 年間の配信内容を計画。ひろばスタッフと連携、他機関にも声掛けを行いHP掲載についての認知を広げる
- ② 午前・午後のひろば MTG に参加し、イベント開催内容の共有を行う
- ① 幅広い層への認知度アップの為、新聞などのプレスリリースや市報などを活用する

坂出コーディネーター 令和4年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
坂出コーディネー	7,782,000 円	正 1 人 P 1 人 太田	3,500 人
地域で共育	150,000 円	正 1 人 P 1 人 太田	156 人

【年度の行動目標】

主	家族のことを相談できる場所(ダブルケア、生活の困りごと、こころの相談)となる。～支援者について知る～	今期の重点行動予定	SDGs
重点項目	① 情報提供	各相談会の報告、支援者や連携機関についての情報提供をHPにて行う。各相談会では、連携支援機関による情報提供の時間を設ける。	3.4.10.11
	② 相談	相談できる場の定期開催。当事者だけでなく、予備軍など幅広い層が支援者について知る機会をつくる。	3.4.10.11
	③ 広報	ひろば通信、HP/SNSなどを活用し相談の場を周知。ひろばではポスター掲示や情報コーナーにて知らせる。	3.4.10.11
	④ 他機関連携	スタッフが関係機関の業務や役割について学ぶ機会をもつ。地域の支援者と連携して地域ネットワークを構築する。	3.4.10.11.17
	⑤ 資源開発	学童期に向けて切れ目のない支援への講座開催。発達相談会実施。(今年度より2回/年)	3.4.10.11.17

【事業チームとしての行動計画】

目標数値:参加者アンケートにて、相談先について知ることができたと感じた割合を80%以上とする。

- ① HPにて年間計画、イベント報告、関係機関についての情報提供を定期的に行う。SNSでは、支援者、相談機関の紹介を投稿する。(各事業4回/年ずつ)
- ① 当事者だけでなく、予備軍など幅広い層に向けて支援者から講話を実施。相談内容や支援者の役割についての情報提供を行う。(ひろば定員の60%以上の参加)
- ② 相談会・座談会を定期的で開催する。(ダブルケアカフェ12回/年、こころの相談会5回/年、暮らしの困りごと座談会4回/年)(ひろば定員の60%以上の参加)
- ② 必要に応じて個別相談につなげる。
- ③ ひろば内に情報コーナーを設置し、イベントポスターを掲示。(月1回更新)
- ③ 通信、HP/SNSなどを活用し、相談会や連携機関の周知。(家族のことを相談できることの認知度60%以上)
- ④ 連携機関の業務・役割について学ぶ勉強会の開催(協力:坂出市社協)(2回/年)
- ④ 連携機関との地域ネットワークの構築のため坂出ネットワーク会議を開催する(4回/年)
- ⑤ 地域ネットワーク会議メンバーにより学童期に向けて切れ目のない支援への講座実施。
- ⑤ 発達相談会、オフ会、性教育講座、パパ座談会の実施(予約定員に対する参加率70%以上)

【計画達成へのポイント】

月に1度のミーティングの実施。割分担当を明確にし、滞りなく遂行できるように共有管理を行う。

ドコモ市民活動団体助成事業 令和4年度計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
ドコモ市民活動団体助成事業	1,000,000 円	正 1 人 太田	92 人

計画	実施	内容
第 2 回ひとり親サポーター養成講座	2022.8.24	オンラインにて実施
		・調査研修報告
		・ひとり親の現状と課題
		・香川県の女性相談の体制と DV 支援について
		・親子の成長を見通した支援
・支援技術について		
テキスト・ステッカー作成	2021.11～2022.12	ひとり親サポーター養成講座受講団体に配布、掲示。地域子育て支援拠点にて座談会の実施に伴うテキスト作成配布
座談会講師派遣	2022.1～2022.7.30	ひとり親サポーター養成講座受講団体の座談会開催箇所に講師派遣を実施
ひとり親サポーター養成講座フォローアップ研修	2022.7.27	・事例討 ・座談会のスタッフの役割を考える

地域で共育 令和4年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
地域で共育	150,000 円	正 1 人 太田	100 人

活動内容(具体的な活動内容、実施場所等)
<p>◆実行委員会 2回開催</p> <p>①「水の怖さを学ぶ～命を守るために出来ること～」 講師:森重 雄二さん</p> <p>②「パパおもてなし～自然の中で BBQ～」 場所:交流里おうごし</p> <p>③「学生ボランティアによる学習支援」</p> <p>④「子どもから考える命のお話し」 講師:鈴木佳奈子さん</p> <p>⑤「動物セラピーって何？」 協力:こころの医療センターJ'sセラピーガーデン</p> <p>⑥「落ち葉アート」 講師:武市 和宏さん</p> <p>⑦「学生ボランティアによる学習支援」</p>